

保険・年金 フォーカス

ドイツの民間医療保険及び 民間医療保険会社の状況(2) —2023 年結果—

客員研究員 中村 亮一
E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

前回のレポート「[ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社の状況\(1\)—2023 年結果—](#)」(2025.3.3)では、以前の保険年金フォーカス「[ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社の状況\(1\)—2022 年結果—](#)」(2024.3.5)について、2023 年ベースの数値に更新する形で、民間医療保険の普及状況について報告した¹²。

今回のレポートでは、「[ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社の状況\(2\)—2022 年結果—](#)」(2024.3.11)について、2023 年ベースの数値に更新する形で、民間医療保険会社の市場シェア、経営効率及び財務面の状況について報告する。

2—民間医療保険会社の状況(1)—市場シェア—

ここでは、民間医療保険会社の市場シェアの状況について報告する。なお、一部のデータは 2022 年末が直近で得られる最新のデータになっている。

1 | 会社数

2023 年末で 46 社の民間医療保険会社が存在しており、会社数では、保険会社全体の 1 割弱を占めている。2015 年から 2016 年にかけて、2 社が事業を停止して、新たに 1 社が事業を開始して 46 社体制となってから、民間医療保険会社の全体数に変化はない。

¹ ドイツの医療保険制度全体の概要及びその中での民間医療保険の位置付けや各種の制度の具体的な内容（公的医療保険と民間医療保険の課題、民間利用保険の収支構造（保険料調整の仕組み等）等については、基礎研レポート「[ドイツの医療保険制度\(1\)～\(3\)](#)」(2016.3.15～2016.4.18)を参照していただきたい。

² 以下の図表については、基本的には、ドイツ保険協会（GDV）の「Statistical Yearbook of German Insurance 2023」及び民間医療保険連盟（PKV）の「Zahlenportal: www.pkv-zahlenportal.de」からの数値に基づいている。両者の数値は必ずしもベースが同じにはなっていない。また、PKV をデータ・ソースとする GDV の資料についても、GDV の資料に基づく、としている。なお、GDV の資料で必ずしも数値の整合性が取れていないと思われるものについても、原資料の数値を尊重した。

民間医療保険－会社数の推移－

	1980年	1990年	2000年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年	2023年
医療保険会社数	51	55	55	48	47	46	46	46	46
(参考)保険会社数	809	729	659	582	539	523	519	506	N.A.

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく。なお、医療保険会社のうち、外資系は4社

2 | 会社形態

2022 年末の 46 社のうち、26 社が株式会社で 20 社が相互保険組合³である。2018 年から 2019 年にかけて、株式会社が 1 社増加し、相互保険組合が 1 社減少して以降、構成に変化はない。また、2022 年における前者と後者の保険料ベースでの市場シェアはそれぞれ 62.4%、37.6%となっている。

2000 年との比較では、株式会社及び相互保険組合とも、その数は減少している。なお、保険料シェアでは、2022 年までは株式会社がほぼ毎年シェアを高めてきていた。特に、2019 年には株式会社が 1 社増加し、相互保険組合が 1 社減少したことの影響により、株式会社のシェアが 4.3%ポイントと大きく増加したこともあり、2020 年までの 20 年間で、株式会社のシェアは 10.0%ポイント増加していた。ただし、2021 年は 2020 年に比べて、株式会社の保険料シェアが 0.6%ポイント低下しており、2022 年も同じ水準となっている。

民間医療保険－会社形態別－

	2000年		2010年		2021年		2022年	
	会社数	保険料シェア	会社数	保険料シェア	会社数	保険料シェア	会社数	保険料シェア
株式会社	31	53.0%	25	57.0%	26	62.4%	26	62.4%
相互保険組合	24	47.0%	23	43.0%	20	37.6%	20	37.6%

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく。

3 | 会社のシェア（市場の集中度）

2022 年における上位会社のシェアは、保険全体の場合に比べて高く、より集中度が進んだ市場となっている。また、外資系会社のシェアは 12.7%と、保険全体の場合の 17.7%に比べると低い水準となっている。因みに、2020 年においては、それぞれ 13.6%、15.3%だったので、後者は上昇しているのに対して、前者は低下している。

民間医療保険－市場の集中度(2022年 グループ収入保険料ベース)－

	上位5社	上位10社	上位15社	外資系
医療保険	52.38%	76.19%	88.93%	12.7%
(参考)保険全体	49.94%	67.14%	79.09%	17.7%

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく。

4 | 医療保険会社

2022 年における医療保険各社の収入保険料及び被保険者数は、次ページの図表の通りとなっている。

上位 5 社の収入保険料シェアは 53.7%で、10 年前の 2013 年の 50.2%と比べて、3.5%ポイント上昇している。因みに、2022 年は 52.9%だった。

³ 英語の「mutual insurance association」の翻訳であるが、「共済組合」との翻訳も考えられる。

民間医療保険会社の収入保険料と被保険者数（2023年）

（単位：百万ユーロ、千人）

会社名	収入保険料	シェア	被保険者数 （年度末）
DEBEKA KRANKEN	7,836	17.3%	4,339
DKV AG	5,247	11.6%	4,321
ALLIANZ PRIV.KV AG	4,150	9.2%	2,949
AXA KRANKEN	3,814	8.4%	1,717
SIGNAL KRANKEN	3,239	7.2%	2,480
BARMENIA KRANKEN	2,227	4.9%	1,850
CENTRAL KRANKEN	2,388	5.3%	2,249
BAYERISCHE BEAMTEN K	2,054	4.5%	1,537
CONTINENTALE KRANKEN	1,868	4.1%	1,303
HUK-COBURG KRANKEN	1,739	3.8%	1,600
合 計	46,911	103.8%	0
上位5社合計	24,285	53.7%	15,806
上位10社合計	34,561	76.5%	24,344

（参考）2013年

収入保険料	シェア	被保険者数 （年度末）
5,084	14.3%	3,837
4,932	13.8%	4,444
3,254	9.1%	2,524
2,530	7.1%	1,535
2,089	5.9%	1,974
1,532	4.3%	1,245
2,171	6.1%	1,788
1,511	4.2%	1,068
1,443	4.0%	1,302
1,043	2.9%	925
35,639	100.0%	37,176
17,889	50.2%	14,314
25,589	71.8%	20,642

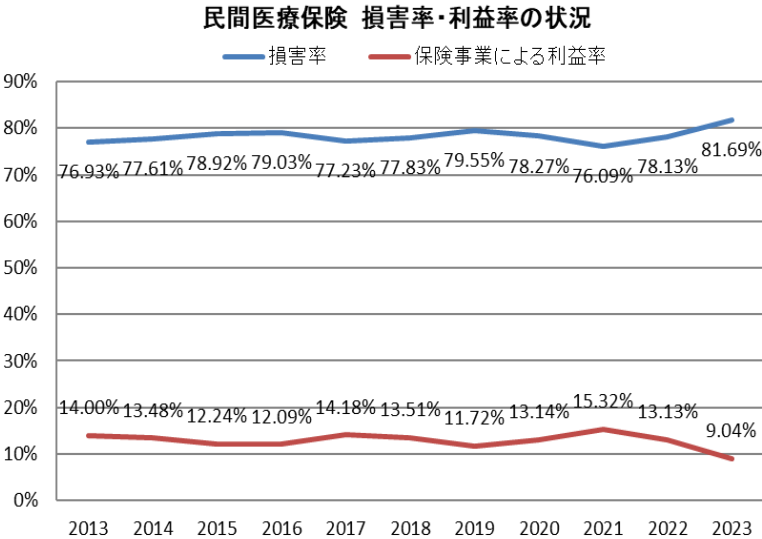
（※）BaFinの資料に基づく。「合計」は、上記以外の会社を含む全社合計

3—民間医療保険会社の状況(2)—経営効率—

ここでは、民間医療保険会社の各種の経営効率の状況について報告する。

1 | 損害率・収益率

以下の図表が示すように、保険料に対する給付額の割合を示す「損害率（Damage ratio）」は、年によって変動はあるものの、2022 年まではほぼ 76%から 80%の範囲内で推移してきていたが 2023 年は2022 年に比べて、3.56%ポイント上昇して 81.69%となった。これは、これまでの、①医療技術の進歩や新薬の導入等による医療費の増加、②高齢化社会の進展に伴う医療サービス需要の増加、といった傾向に加えて、③COVID-19 の影響等による医療サービス利用機会の増加、④インフレ率の上昇（2023 年の消費者物価上昇率は前年比で 5.9%）等が影響したものと考えられる。



（※）民間医療保険連盟（PKV）のデータに基づく。

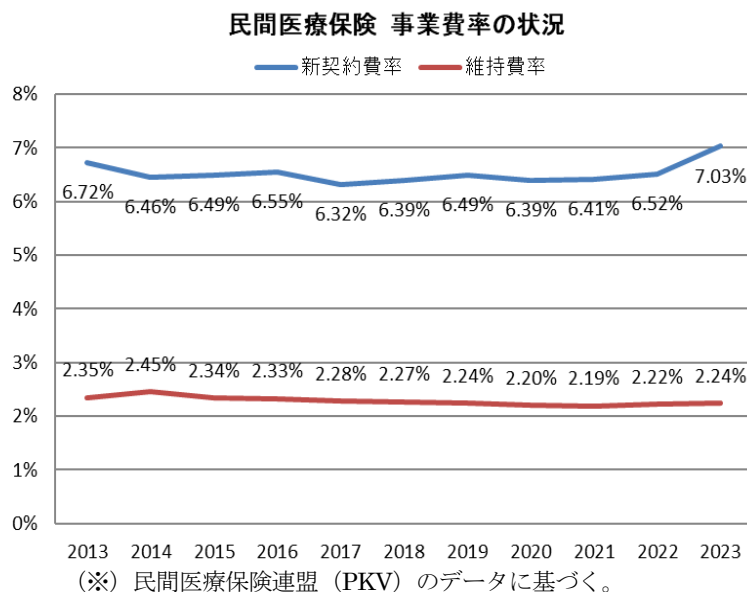
一方で、総収入に対する保険事業からの財務業績の割合を示す「保険事業による利益率（Result ratio

from insurance business activity)」については、2011 年以降 2022 年までは 12%～14%程度の水準で推移してきていたが、損害率の悪化を反映して、2023 年は 2022 年に比べて、4.09%ポイント低下して 9.04%となった。

2 | 事業費率

以下の図表が、事業費率のうちの新契約費率と維持費率⁴を示している。新契約費率は低下傾向にあった中で、2018 年、2019 年と若干上昇した。2020 年は再び低下したが、2021 年、2022 年と上昇していた。2023 年はさらに 0.51%ポイント上昇して 7.03%となった。これに対して、維持費率は 2021 年まで低下してきたが、2022 年、2023 年と若干上昇している。

このように、民間医療保険会社は、過去から事業費効率の改善を図ってきているが、ここ数年は低下傾向が落ち着いて、反転の兆しも現れている。



3 | 資産運用効率

(1) 資産構成比 (運用ポートフォリオ)

民間医療保険会社の資産 (投資ポートフォリオ) の推移は、以下の図表の通りであり、2023 年末では、2022 年末に比較して 3.9%増加して 359.6 十億ユーロになっている。これに対して、生命保険会社では 2.6%減少して 1,007.5 十億ユーロ、損害保険会社では 3.8%増加して 205.2 十億ユーロとなっている。

因みに、2011 年からの 12 年間における増加率では、生命保険会社の 35.7% (年平均 2.6%)、損害保険会社の 48.7% (年平均 3.4%) に対して、医療保険会社は 89.7% (年平均 5.5%) とかなり高くなっている。

⁴ 新契約費には、ブローカーへの手数料を含む保険契約締結時に発生する全ての経費が含まれる。維持費には、保険契約の維持管理に関わる全ての経費が含まれるが、新契約費と給付金支払手数料等のサービス処理に伴う経費は含まれない。

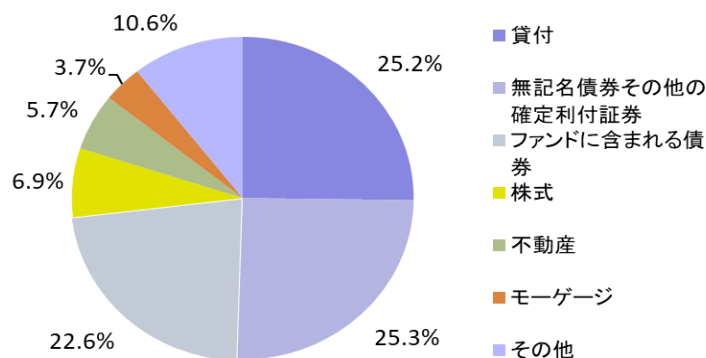
保険会社の資産の推移

(単位:十億ユーロ)

	2011年	2021年		2022年		2023年		増加率(2011→2023)	
	残高	残高	増加率	残高	増加率	残高	増加率	増加率	年平均
医療保険会社	189.6	332.3	5.2%	346.0	4.1%	359.6	3.9%	89.7%	5.5%
生命保険会社	742.7	1028.5	2.5%	1034.8	0.6%	1007.5	▲2.6%	35.7%	2.6%
損害保険会社	138.0	189.8	4.3%	197.7	4.2%	205.2	3.8%	48.7%	3.4%

資産の構成比は、貸付が 25.2%、無記名債券その他の確定利付証券が 25.3%、ファンドに含まれる債券が 22.6%で、その他の債券等を含めて 8 割以上が金利資産となっている。また、株式の構成比は 6.9%となっている。

医療保険会社の資産構成比(2023年末)

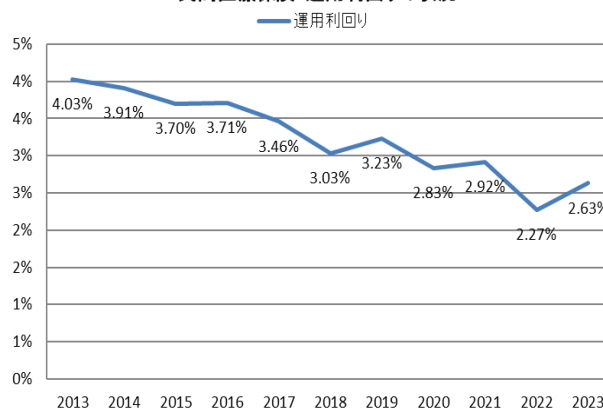


(※) ドイツ保険協会 (GDV) のデータに基づく。

(2)運用利回り

低金利環境下で、運用利回りは低下してきていたが、昨今の金利の反転を反映して、2023 年は 2.63%と利回りは 0.36%ポイント上昇している。

民間医療保険 運用利回りの状況



(※) 民間医療保険連盟 (PKV) のデータに基づく。

4 | その他の重要指標

民間医療保険連盟の資料によれば、上記に加えて、例えば、以下の比率が重要指標として掲げられている。ここに、RfB (Rückstellung für Beitragsrückerstattung : Provision for bonuses and rebates) は、保険料の償還や将来の保険料水準の増加の軽減等に使用されるための準備金である。

「RfB 比率 (Refinancing[RfB] ratio)」は、RfB 残高を総収入 (earned gross revenues) で除して得られる比率であり、会社が将来の保険料水準の軽減を提供するための追加ファンドの積立率を示している。

「RfB 充当比率 (Refinancing[RfB] appropriation ratio)」は、RfB への繰入れを総収入で除して得られる比率であり、総収入のうちのどの程度が、保険料水準の軽減や現金償還を提供するための将来の手段のファイナンスのために RfB に充当されるのかを示している。

「RfB 引出し比率 (Refinancing[RfB] withdrawal ratios)」は、現金償還と一時金償還⁵の 2 つの指標に区分され、それぞれ RfB からの全体の償還のうちの現金及び一時金での償還の割合を示している。

「準備金比率 (Provision ratio)」は、総収入のうちのどの程度が老齢化等のための準備金 (老齢化積立金、RfB、保険監督法第 150 条第 4 項に従う保険料への使用) に繰り入れられているのかの割合を示している。

これらの重要指標の過去からの推移は、以下の通りとなっている。

民間医療保険のその他重要指標の推移

(単位: %)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
RfB比率	42.29	39.95	42.08	39.40	38.88	36.50	33.76	34.97	36.23	34.04
RfB充当比率	13.45	10.56	11.15	12.50	9.99	10.54	10.50	13.58	9.03	8.20
RfB引出し比率(現金)	50.69	71.72	59.21	74.23	66.71	73.05	73.95	71.72	56.31	70.37
RfB引出し比率(一時金)	49.31	28.28	40.79	25.77	33.29	26.95	26.05	28.28	43.69	29.63
準備金比率	43.24	39.11	39.90	39.39	35.68	35.95	34.07	37.10	31.24	30.07

(※) 民間医療保険連盟の資料に基づく。

4—民間医療保険会社の状況(3)—財務面—

この章では、BaFin の Annual Report 2022 等に基づいて、民間医療保険会社の財務面の状況について報告する。

1 | 老齢化積立金の積立状況

民間医療保険連盟全社の総負債・資本 367,468 百万ユーロのうち、老齢化積立金が 328,097 百万ユーロで 89.3%を占めている。

その他では、支払備金が 9,162 百万ユーロ(構成比 2.5%)、RfB が 16,898 百万ユーロ(構成比 4.6%)で、資本は 8,320 百万ユーロ(構成比 2.3%)となっている。

民間医療保険会社の総負債・資本構成(2023年末)

(単位: 百万ユーロ)

	老齢化積立金	支払備金	RfB	資本	総負債・資本
金額	328,097	9,162	16,898	8,320	367,468
(構成比)	(89.3%)	(2.5%)	(4.6%)	(2.3%)	(100.0%)

(※) 民間医療保険連盟の資料に基づく。

このうち、老齢化積立金の積立額及びその給付額に対する比率の推移は、以下の通りとなっている。

高齢化の進展に対応する形で、毎年比率が上昇してきている。2023 年末では、10.87 年分の給付金額に相当する老齢化積立金が積み立てられている状況にある。

⁵ 「現金償還 (Cash Disbursement)」は、医療費をカバーするために保険会社が保険契約者に対して行う支払い、即ち、医療費の払い戻しであり、「一時金償還 (One-off Contribution)」は、将来の保険料の減額や保険料の払い戻しのために保険会社から保険契約者に提供される拠出金である。

民間医療保険会社の老齢化積立金の積立状況の推移

(単位:百万ユーロ、%)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
①老齢化積立金	206,193	220,083	232,719	247,206	260,058	274,015	287,898	302,048	314,275	328,097
②給付額	24,791	25,908	26,592	27,205	28,580	30,052	30,749	31,831	33,385	35,672
③ ①/②	8.32	8.49	8.75	9.09	9.10	9.12	9.36	9.49	10.62	10.87

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

2 | ソルベンシーの状況

ソルベンシー II が 2016 年 1 月 1 日に施行されて以来、ソルベンシー I は保険監督法第 211 条の意味の範囲内で小規模な保険会社としての資格を有する 6 つの医療保険会社にのみ適用されてきた。6 つの全ての会社が 2023 年 12 月 31 日時点でそれらに適用されるソルベンシー規則を遵守している。

残りの 40 の医療保険会社は、2023 年末現在、ソルベンシー II の対象となっている。これらの医療保険会社の大多数は、SCR (Solvency Capital Requirement : ソルベンシー資本要件) の計算に標準式を使用している。4 つの会社が、部分的又は完全な内部モデルを使用しており、これらの会社の SCR はセクター全体の半分弱のシェアを有している。どの会社も、USP(Undertakings Specific Parameter : 会社固有のパラメータ)を使用していない。

40 社のうち、2 社が VA (Volatility Adjustment : ボラティリティ調整) と TTP (Transitional on the Technical Provision : 技術的準備金に関する移行措置) を適用し、5 社が VA のみを適用している。TRFR (Transitional on the Risk-Free Rate : リスクフリー金利の移行措置) を適用した会社はなかった。因みに、2022 年に比べると、VA 適用会社が 1 社増加している。

2023 年 12 月 31 日現在、民間医療保険会社全体の SCR カバレッジ率は 473.77% (2022 年は 486.55%、2021 年は 481.4%) だった。

3 | ACIR と技術的利率

医療保険会社は、ACIR (Actuarial corporate interest rate : 保険数理上の会社利率) に基づいて技術的利率を決定する。

SLT 医療保険⁶のビジネスモデルは、適切な保険料率に基づいているべきであり、保険料率が適切かどうかを確認するために、毎年レビューする必要がある。これには、保険料の計算の基礎となる全ての前提、特に投資の純利益の進展に関連する前提の調査が含まれる。保険会社は、ドイツアクチュアリー会 (DAV) によって開発された ACIR の決定に関するガイドラインに基づいて、この進展と安全マージンを推定する。DAV は、2024 年 10 月 2 日に、それまでの 2019 年のバージョンを改訂し、50 年以上 3.5% に固定されてきた民間医療保険の技術的利率を見直すための最新の手順を導入した新たなガイドラインを採択している⁷。

保険会社は毎年 ACIR を BaFin に報告する必要がある。これにより、保険料の調整が必要な場合に、既存の保険料の技術的利率を引き下げる必要があるかどうかが決まる。

2023 年の金利上昇は、民間医療保険会社の進展に大きな影響を与えた。金利上昇は、新規・再投資の

⁶ SLT (Similar to Life Techniques) (生命保険と同様の技術的基礎) を使用して引き受けられる医療保険のことで、いわゆる長期医療保険契約のことを指している。

⁷ <https://aktuar.de/en/knowledge/specialist-information/detail/actuarial-corporate-interest-rate-in-german-private-health-insurance/>

収益機会を改善したが、一方で、債券投資の含み益は減少し、多くの医療保険会社は含み損を形成した。2023 年 9 月 30 日時点の BaFin の予測計算が示すように、医療保険会社は中期的に金利を引き上げ続けることができる。同時に、一部の医療保険会社はすでに技術的利率を引き上げている。これは、彼らが金利上昇を織り込んでおり、保険料の増加を軽減できることを示している。インフレ率の上昇と COVID-19 のパンデミックの巻き返し効果にもかかわらず、保険給付とコストはこれまでのところ大幅に増加していない。

なお、完全医療保険に加入している被保険者の約 73% (2023 年 41%、2022 年 41%、2021 年 84%、2020 年 61%、以下同様) が、2024 年に少なくとも 1 つの保険モジュールで保険料調整の影響を受けた。一部の被保険者については保険料が引き下げられているが、セクターの平均保険料上昇率は 6.3% (5.2%、5.7%、10.1%、5.1%) だった。医療保険会社は、保険料の値上げを制限するために、合計約 22.6 億ユーロ (約 12 億ユーロ、約 16 億ユーロ、約 26 億ユーロ、約 20 億ユーロ) の配当準備金を使用した。

5—まとめ

以上、ドイツにおける民間医療保険及び民間医療保険会社の状況について、基本的には 2023 年数値に基づいて、2 回のレポートで報告してきた。

ドイツの生命保険会社は、長期の貯蓄性商品を保証利率付で販売してきたことから、低金利環境の継続で、販売面でも財務面でもかなり厳しい運営を迫られてきた状況にあった。それに比べると、医療保険会社の状況は、これまで相対的に大きな問題として捉えられている状況にはなかった。

これは、医療保険会社の場合には、利率に比べて、保険事故発生率による影響がより大きな意味合いを有していたことが関係していた。ただし、代替医療保険等は終身保障で提供されていることから、金利環境に基づく割引率の影響が、特に 2021 年まで継続していた低金利環境下では、かなり大きなものとなってきた。こうした状況下で、2024 年には、2023 年に引き続いて、多くの被保険者が保険料調整の影響を受ける形になっていた。2022 年に入ってから、金利が上昇しており、インフレも進行したことから、その影響についても懸念されていたが、これについては 2024 年までの時点では大きな影響は与えていない、と評価されている。

こうしたドイツにおける民間医療保険及び民間医療保険会社の状況については、今後のドイツにおける公的医療保険制度の改定等の動向と併せて、同じように超低金利環境を経験し、その後の一定程度の金利の上昇やインフレも経験するかもしれない日本においても参考になるものがあると思われることから、その動向を引き続き注視していくこととしたい。

以 上